



▲左から近藤市長、小藤代表、笹尾武さん。

布部の歴史を後世に残す

布部地区の産業や風土、文化をまとめた郷土史「ふるさとの燈 布部語」を布部郷土史談会が完成させ、5月22日、近藤市長に報告しました。

この郷土史は布部地区住民有志により結成された同会が3カ年計画で作成。資料収集や調査研究、学習会などを行い、後世に残すべき布部の歴史をまとめました。

同会代表のひろなり小藤洋也さんは「ふるさとを愛するには、まず、ふるさとを知ることが大切。若い世代に向けて布部の歴史などを知ってもらえる物ができたいと思います」と話していました。



ドジョーンが感染防止をPR

(一社)安来青年会議所が新型コロナウイルス感染症の予防法を子どもたちに伝える動画を5月18日に公開しました。

約6分間のこの動画は、「環境戦士ドジョーン」が子どもたちを襲う悪役「コロナーン」をアルコールビームで退治するという内容。終盤には、ドジョーンが手洗いやうがい、マスクをつけることなど、新型コロナウイルスに感染しないための予防方法を説明するシーンもあります。



まちの話題や出来事をご紹介します



このマークの記事は、関連写真を「市公式フェイスブック (FB)」で公開しています。



上の台緑の村で生まれた双子のヤギ。野原を駆け回るときも草を食べるときも2匹で動きます。仲の良いきょうだいの様子が見られました。(5月8日)

今月の一枚



◀環境戦士ドジョーンは、(一社)安来青年会議所が平成23年に制作したキャラクターです。

特撮ヒーロー風の映像にすることで子どもたちが楽しく見て、その後、実践してもらえるようになっています。

制作に携わった同会議所の宇山賢二さんは「動画を見て子どもが手洗いをするようになったという声をいただきました。親子で動画を楽しんでもらって、家族みんなで感染防止に取り組むきっかけにしたい」と話していました。

動画配信サイト「Youtube」で公開しています。右のQRコードから見ることができます。



「コロナシ」を願って体験学習

20世紀梨の栽培収穫体験学習が5月21日、板持浩二（久白町）さんの梨畑で行われました。参加したのは、荒島小学校3年生の児童22人。梨の果実を雨や風から守るため、蠟で加工された小袋を掛ける作業を体験しました。

板持さんは「この学習は父親の代から20年以上続けています。子どもたちにはこの経験を通じて地元の農業を感じて欲しいです」と話していました。

今年の梨は「コロナシ（コロナ無し）」の未来がやってきてほしいとの願いを込めて、栽培をしています。



◀一つずつ丁寧に、梨の小袋掛けを行う児童。

カラオケで住民同士の交流を

地域住民の交流と健康づくりを進めようと新十神町自治会が宝くじの助成金を活用して、このほど集会所にカラオケ設備を導入しました。

同自治会では、以前から地区の行事や寿会などでカラオケを行ってききましたが、設備は23年以上経過し老朽化。今後の行事などで活用することを踏まえ、新しく整備しました。

江戸知治会長は「新しい機械で曲数が増えました。これから寿会や親子会など、幅広い世代の人で活用したい」と話していました。



◀カラオケ設備の動作を確認する新十神町自治会の皆さん。



▲小笹会長から食料品を受け取るズオンさん。

一人暮らし学生に食料支援

新型コロナウイルスの影響で生活に困っている学生を支援しようと、安来市社会福祉協議会（小笹邦雄会長）と安来市社会福祉法人連絡会（杉原建会長）が島根総合福祉専門学生に向けて食料品を提供しました。

5月18日には、贈呈式が行われ、一人暮らしの学生に米やレトルト食品などを寄贈。留学生10人を含む14人の学生の生活に役立てられました。

ベトナムからの留学生ゲン・ビン・ズオンさん（2年生）は、「今はアルバイトでの収入が減っているので、とても助かります」と話していました。

バケツ田植えで米づくり

ふるさと教育の一環として、地域の産業である米づくりを身近に感じてもらおうと「米づくり体験学習」が5月28日、安田小学校で行われました。

今年は新型コロナウイルス感染症予防のため、参加した児童20人は泥や水を入れたバケツに苗を植える「バケツ田植え」を体験しました。

田植えに続き、児童はJAしまねやすぎ地区本部の担当者から「稲づくり」について学習。「お米の花が2時間しか咲かないと聞いて驚いた」、「安来市は米の生産量が県内で2番目なのはすごいと思った」との声が上がっていました。



▲収穫の秋まで、日々観察しながら大切に育てます。